

# 令和3年度第29回全国高等学校生徒商業研究発表大会 ～新しい形式で開催した発表大会の報告～

公益財団法人全国商業高等学校協会 調査・広報部長 内田 靖  
(埼玉県立浦和商业高等学校長)

## 1 はじめに

全国高等学校生徒商業研究発表大会（以下、「生徒商研大会」という）は、「商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通じて、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。」（生徒商研大会要項）ものである。

全国商業高等学校協会（以下、「全商」という）主催の大会やコンテストは、その多くが習得した知識・技術がいかに高度に理解され定着しているかを競うものである。一方、この生徒商研大会は習得した知識・技術を活用しながら、思考力・判断力・表現力等を駆使して、主体性をもって多様な人々と協働する力を発揮するものである。つまり、商業に関する総合的な学力を競う合うことを通じて、商業に関する総合的な学力を伸ばさせることを目指している。

折しも、令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領（平成30年4月告示）では、カリキュラム・マネジメントの中核は「総合的な探究の時間」とあるといわれている。カリキュラム・マネジメントとは、「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営み」（田村2011）のことである。つまり、カリキュラムを構成する各教科・科目の学びや特別活動、部活動、地域活動などに関するすべての学校経営や教育活動が、カリキュラム・マネジメントの中核である探究活動につながっているのである。

商業高校では、この総合的な探究の時間、もしくは

は、その代替えとしての「課題研究」において、探究活動が行われることになる。その際、生徒商研大会において長きにわたり蓄積された知見が生かされ、カリキュラム・マネジメントの中核としての探究活動が効果的に実施されることが期待できる。

このように、教育における探究活動の位置付けが明確化され、重点化される中、生徒商研大会は、コロナ禍により、令和2年度は開催中止となり、令和3年度の実施も流動的なものとなっていた。しかしながら、全商の大林誠理事長（東京都立芝商業高等学校長）の「2年続けて生徒の活躍の場を失わせない」という固い決意と号令のもと、様々な創意工夫を凝らしながら新しい形式で開催する運びとなった。



ビデオ発表審査前の大林理事長挨拶の様子

## 2 新しい形式の方法とその内容

従来形式を「参集型」と称するならば、今回の生徒商研大会は「オンライン型・動画発表形式」ということができる。

令和3年度当初、全商調査・広報部は「参集型」に軸を置き、状況によっては「オンライン型・動画発表形式」との併用や「オンライン型・動画発表形

式」への特化に舵を切ることを想定しながら準備を進めていた。しかしながら、コロナ禍の状況は悪化の一途を辿り、生徒の活躍の場を失わせないためには「オンライン型・動画発表形式」への特化に舵を切らざるを得なくなった。なお、全商は、この変更に伴う通知を9月13日付けで各都道府県の連絡理事校宛てに発出した。

続いて、全商は「オンライン型・動画発表形式」という新しい形式による要領・要項・審査基準の周知徹底を図るため、10月1日付けで動画の撮影・提出方法等に関する通知を出場校宛てに発出している。

### (1) 動画の撮影・提出要領

この要領は、新しい形式での実施のために、新たに制定したものである。発表する者、そして視聴する者が、公平性や透明性、納得性をもって発表・視聴できるように、調査・広報部を挙げて精査を行った。公平性や透明性、納得性を高めるための主な工夫は、以下のとおりである。

#### 【発表方法】

- ・ 自校の施設内で発表・撮影を行うこと
- ・ 発表開始の言葉から終了の言葉までのみ撮影

#### 【撮影ルール】

- ・ カメラは一台のみとし、カットや編集はなし
- ・ 発表者の概ね膝から上が映るよう撮影
- ・ 発表スライド全体が映るように撮影
- ・ マスクを着用しての発表

#### 【動画の提出方法】

- ・ 動画は Windows Media Player 12 での再生が可能な形式
- ・ 提出期限の厳守

#### 【その他】

- ・ オンライン配信があること
- ・ 著作権や著作隣接権の順守と肖像権に関する承諾

### (2) 大会要項

大会要項を精査し、感染防止のため「マスク着用での発表」と変更した。

### (3) 審査基準

新しい形式では進行を担当する司会者がいないため、各出場校の発表者が自ら「〇〇高等学校、[発表タイトル (サブタイトルを含む)] についての発表を始めます。」と発してから発表を始めるように変更した。

## 3 新しい形式での生徒商研大会の実施

生徒商研大会では、大きく分けて、報告書と発表の2分野について審査を行う。報告書については、従来の参集型の大会と大きくは変わっていないが、発表については会場発表からビデオ発表へと大きな変更が行われた。

### (1) 研究報告書

令和3年度の生徒商研大会における調査研究の内容については、コロナ禍ということもあり、活動に制限がかかっていた。このため、多くの学校で当初設定した活動・研究・調査等ができていないという印象が強く感じられた。

地域などの学校外部との打ち合わせにおいても、テレビ会議システムをつかったり、アンケート調査も対面型ではなくオンライン形式で回答を求めたりしている学校が多かった。

一方で、このようなICTをつかった取組は、今後の調査研究の活動範囲を広げたり、チャンネルを上げたりすることにつながると期待できる。ICTの有効活用は、調査研究に多面性や多角性、総合性を育ませ、新たな知見を生み出す機会が増えていくのではないかと期待できる。

### (2) 動画発表

報告書に比べて、発表については大きな変更があった。出場校においては、経験のない発表スタイルや方式に相当な苦労や不安があったのではないかと推察する。

審査に当たっては、動画の撮影技術や方法、撮影場所などの環境の良し悪しなど、発表自体と関係のない要素は排除して、発表本体に焦点を当てて評価した。一定のルールを事前に提示していたにも関わらず、撮影方法・アングル・音量・照明など、どうしても統一的な動画とはならなかった。審査には一切影響はないが、今後、商業を学ぶ学校として、動画の撮影についてのスキルを向上させるべきではないかとは感じたところである。

一方、動画発表は派手なパフォーマンスの演出がしにくいいため、発表自体の質の向上が図られるという予期せぬ良い効果が生まれた。

反面、繰り返し撮影が可能であることから、動

画の表現の演出に焦点を当て過ぎ、場面が目まぐるしく移り変わり、視覚と理解が追いつかなくなるような発表もあった。カメラの先には、観客（今回の場合は視聴者）がいるという意識が必要だったのではないだろうか。

### (3) 来年度の生徒商研大会に向けて

来年度の大会については、コロナ禍の見通しが全くつかないため、どのような形式の大会になるかは、現時点では確たる発言はできない。

ところで、学校現場における教育活動には、文章や図表などで引き継げる形式知だけでなく、実際に体験して得られる知見である暗黙知がある。生徒商研大会も、この2年間、参集型の大会運営を実施していないことから、各学校の調査研究においても、開催地の大会運営においても、暗黙知の引継ぎが課題となってくるだろう。

生徒商研大会にかかわる学校においては、調査研究の様子をビデオ化するなどの可視化や、先輩や教職員のオーラル・ヒストリー（口述歴史）化を通じて、暗黙知を可能な限り形式知に置き換えて引き継いでいくことが求められるだろう。

## 4 大会を振り返って

### (1) 審査委員長（調査・広報部長）審査講評

今回は、紙幅の都合上、調査研究における「仮説→企画→実践→検証→課題」の論理的な構成のうち、仮説に焦点を当てて3点助言したい。

1点目は、テーマと問いの設定についてである。仮説の設定に当たっては、テーマとそれに対する問いにしっかり向き合いながら定めてもらいたい。

良いテーマとは「不思議なこと、せめて面白いこと」、「一言で言える」こと、「少しの無理」があること、「10年はもつ」こと（伊丹2001）である。また、問いについては、「疑問と問いの決定的な違いは、疑問が感じるだけで終わる場合が多いのに対して、問いの場合には、自分でその答えを探し出そうという行動につながっていくという点」を意識したい。そして、「最初の問いをいくつかの問いに分解したり、関連する問いを新たに探したりする、問いの分解と展開によって、考えを誘発する問いを得る

ことができる」（荻谷2002）のである。

今回の出場校の中には、このテーマと問いの設定に関して、踏み込みがやや甘い研究が散見された。そこで、私は、このテーマと問いの設定に関して、学校内外部の方に対し発表会を行い討論することを通じて、多面的・多角的・総合的に修正や再設定することを提案したい。

2点目は、仮説の設定についてである。前述のとおり、テーマを決めて問いを立てる過程を通じて、「考えを誘発する問い」が浮かび上がってくるはずである。そして、その「考えを誘発する問い」に対して、見込みや予想である仮説を立てることになる。この仮説は、「AはBである」という「命題」から成り立っており、その命題が「相互に規則づけられ」て「理論」として構成されている（立田2005）ものである。

今回の出場校の調査研究の仮説やその説明には、「AはCである」のような論理の飛躍が一部見受けられた。そこで、私は、先述のテーマと問いの設定に関する発表会を受けて、研究を行う生徒たちと指導に当たる先生方が仮説の設定に関する徹底的な議論を通じて精緻化を進めることを望む。

3点目は、仮説の論拠についてである。仮説には、それが正しいという証拠を論理的に説明する論拠が伴う。仮説の論拠には、「データという証拠」や「厚い記述という証拠」、「論理という証拠」が必要である（伊丹2001）。



発表ビデオ視聴による審査の様子

今回の出場校の発表の中には、報告書に記載されたグラフや表が小さかったり色合いが悪かったりして十分に読み取れないものがあつた。また、

アンケート調査の期間や対象、標本数の表示がなかったり、曖昧であったりするものが散見された。さらに、先行研究の出典が明示されていない箇所も見受けられた。これらは、自らの主張が正しいことを証明する証拠であり、読み手（聞き手）に対して、その主張が正しいのかどうか判定するための検証可能性を提供するものである。先行研究の論文を研究することなどを通じて、仮説の論拠を正しく表示・記述してもらいたい。

この大会を通じて商業教育の中核である探究活動が、さらなる高みとさらなる広がりをもって発展していくことを期待している。

## (2) 審査結果

全商協会調査広報部長（審査委員長）、同副部長（審査副委員長）、開催地委員3名（外部委員2名以上）の計5名の各委員は、総合得点100点（研究内容：50点、研究報告書の完成度：10点、研究発表：30点、総合評価：10点）の達成度を評価する。そして、各委員の総合得点の合計の高い学校を上位とした。その結果、以下のとおり表彰対象校を決定した。

【最優秀賞（文部科学大臣賞，産業教育振興中央会賞）】

広島県立広島商業高等学校

### 【優秀賞】

群馬県立高崎商業高等学校

山形県立商業高等学校

岸和田市立産業高等学校

### 【優良賞】

山梨県立ひばりが丘高等学校

長崎県立長崎商業高等学校

新潟県立新発田商業高等学校

高知市立高知商業高等学校

大分県立大分商業高等学校

### 【奨励賞】

静岡県立浜松商業高等学校

北海道苫小牧総合経済高等学校

神奈川県立平塚農商高等学校

愛媛県立八幡浜高等学校

愛知県立愛知商業高等学校

福岡県立小倉商業高等学校

東京都立荒川商業高等学校

岡山県立岡山南高等学校

岩手県立水沢商業高等学校

奈良県立奈良情報商業・商業高等学校

北海道札幌東商業高等学校

長野県飯田 OIDE 長姫高等学校

## 5 おわりに

まずは、生徒商研大会に出場した学校が社会の様々な課題に対して真正面から向き合い、主体的に多様な人々と協働しながら調査研究に取り組んできたことに、心から敬意を表したい。

この生徒商研大会は、御存じのとおり、生徒の探究活動の成果を発表する場であり、それまでの学びの集大成として位置付けられるものである。令和4年度から年次進行で実施される新しい高等学校学習指導要領では探究活動がカリキュラム・マネジメントの中核として位置付けられるように、この大会は商業教育の中核であるといっても過言ではない。

このように、長きに渡って調査研究を推進してきた生徒商研大会は、商業教育における探究活動の先駆者であるといえる。生徒商研大会に出場した学校が、自校のみならず各地域においても、一層リーダーシップを発揮しながら探究活動を牽引してもらえればと期待する。

最後になるが、これからも、そして、これまで以上に、商業を学ぶ生徒の学びが教科等横断的に地域・国際社会とつながりながら、探究活動の成果発表としての生徒商研大会に集結し、大いにその成果を伝播することを期待している。

## 【参考文献】

伊丹敬之 2001『創造的論文の書き方』有斐閣

荻谷剛彦 2002『知的複眼思考法』講談社+α文庫

立田慶裕編 2005『教育研究ハンドブック』世界思想社

田村知子 2011『実践・カリキュラムマネジメント』

ぎょうせい

※本拙文では、「カリキュラム・マネジメント」を高等学校学習指導要領に倣い「・」在りで表記している。